

自己評価表

1. 経営・運営

新制度移行から6年目。収支の状況、運営の流れ等については安定的に運営できるようになってきたものの少子化の影響で園児数は想定以上に減り始めている。次年度、再度定員の見直しを行う必要がある。特に、1号認定児の減少が著しく、保育の運営においても、園で過ごす時間の格差が目立つようになってきている。2号認定児においては、長時間・長期間保育の子ども同士の関係をバランスよく考えていく必要があるのではないかと感じることもある。今後、放課後の保育のあり方について、丁寧に考えていけるようにしていきたい。コロナの影響は、ほとんど気にならず、1年間のカリキュラムを充実させることができた。コロナ禍において得られた経験をもとに、行事等の運営の方法については、精査しながら行うことができ、よりよい形を見いだしていくことができたと評価できる。ICTの活用により、出席連絡等の簡素化が実現できた。一方、デジタルに依存することで抜け落ちる部分への配慮をしっかりと考慮する必要性を感じている。経営としては、安定的な運営ではあるが、借入金の返済、修繕工事等々の支出や人件費・光熱費等の増の影響も明らかである。近隣の物件購入にあたっては、学園としてのメリットを熟慮して実施した。地域に根ざした子育て拠点として、少しずつ環境整備を進めるとともに、園の地域開放に努めていくこととする。

2. 教育・保育

認定こども園としての教育・保育の在り方、特に、午後の保育・夏季保育のあり方を工夫することが必要となってきた。教育時間における保育の質の向上にあたっては、園内研修の充実を図った。放課後の保育についても、チームで話し合う時間を設けながら、工夫を重ねているところである。時期に応じて、子どもたちの状況に応じて、保育の形態を変えながら、よりよい保育環境で、子どもたちがよりよい関係で過ごせるように、話し合いを深めていきたい。好きな遊びが充実してきたことで、子どもたちの遊びも多様になり、日々の保育が行事の取り組みに繋がっていく形が定着してきている。そのことにより、行事の内容も子どもの興味関心により添ったものに変化してきている。次年度は、園内リーダー（ミドルリーダー）の活躍促進を考えるとともに、若手が育つ環境作りに重点をおいていきたい。

3. 組織・その他

ICTを活用することで、情報共有がスムーズになる中で、情報発信のあり方についての課題が残る。保護者や子どもたちとの情報共有、保育者間の情報共有、未入园児・地域向けの情報発信、それぞれのあり方を見直していきたい。また、キャリアマネジメントについても少しずつ具体化していきながら、組織の体制強化を図っていきたい。